

1. 科目名 (単位数)	人体の構造と機能及び疾病/医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112
2. 授業担当教員	柴野 裕子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 2. 健康・疾病の捉え方について理解する。 3. 人の身体構造と心身機能について理解する。 4. 疾病や障害の成り立ちおよび回復過程について理解する。 5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題①:『終末期・看取り・病気告知』に関する新聞記事や書籍等で自身が興味を持ったものを1つ取りあげて、レポートにまとめる (第13回講義のグループワークで使用し、授業後に提出する)。</p> <p>課題②:生活習慣病とその予防に関するA4ポスターを作成する。 (第15回講義後に提出する。)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』中央法規		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。 2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。 3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。 4. 厚労省が推進する高齢者の QOL の基本的な考えを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。 授業への参加度 30%、レポート 30%、期末テスト 20%、発表能力 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回講義にて、授業の進め方や課題について説明を行います。必ず出席してください。 2. 必ず事前・事後学習を行い、講義に臨んでください。 3. この講義を受講するにあたり、自身の学びをまとめるノートとして、『学修ノート』を用意してください。大学ノートやルーズリーフなど、自身が使いやすいものでかまいません。 		
13. オフィスアワー	講義の前後の時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、健康と疾病の概念、公衆衛生の概要	事前学習	教科書第2章第1節、第7章第1節を読み、自身が考える「健康」の定義について学修ノートにまとめておく。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第2回	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	事前学習	教科書第1章に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第3回	身体構造と心身機能、疾病と障がい① (人体部位の名称、婦人科・産科)、疾病と障がいの成り立ち及び回復過程、母子保健対策	事前学習	教科書第3章、第4章、第6章第14節、第7章第2節 (p226 母子保健対策) に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第4回	身体構造と心身機能、疾病と障がい② (神経疾患、認知症、高次脳機能障害、脳血管疾患、難病対策)	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第2・3節、第7章第2節 (p231 難病対策) に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第5回	身体構造と心身機能、疾病と障がい③ (心疾患)	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第4節に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。

第6回	身体構造と心身機能、疾病と障がい④（内分泌・代謝疾患・呼吸器疾患）	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第5・6節に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第7回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑤（腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患）	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第7・8節に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第8回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑥（骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患、感染症、感染症対策）	事前学習	教科書第3章第2節、第4章(p67～p68 免疫反応)、第6章第1・9・10節、第7章第2節(p229-230 感染症対策)に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第9回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑦（眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害、口腔疾患）	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第11・12・13節に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第10回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑧（精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、精神保健対策）	事前学習	教科書第3章第2節、第6章第15・16節、第7章第2節(p229 精神保健対策)に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第11回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑨（高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、成人保健対策、高齢者保健対策）	事前学習	教科書第6章第17・18節、第7章第2節(p227-229 生活習慣病予防対策、高齢者保健対策)に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第12回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑩（悪性腫瘍、成人保健対策）	事前学習	教科書第4章(p67 発がん)、第6章第19節、第7章第2節(p228 がん対策)に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第13回	身体構造と心身機能、疾病と障がい⑪（緩和ケア）	事前学習	教科書第6章第19節2緩和ケアを読むこと。また、「アドバンス・ケア・プランニング」について調べて、学修ノートにまとめておく。課題①を作成し、グループディスカッションに備えておく。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。講義でのグループディスカッションを踏まえて、「終末期・看取り・病气告知」についての学びや自身の考えを学修ノートにまとめておく。
第14回	国際生活機能分類(ICF)、リハビリテーションの概要と範囲	事前学習	教科書第2章第2節、第5章に目を通しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
第15回	まとめ	事前学習	教科書やこれまでの配布資料に目を通しておくこと。これまでの講義でわからない箇所が質問できるように準備しておくこと。
		事後学習	教科書、配布資料を読んで復習をする。学修ノートを見直し、足りない箇所は追記する。
期末試験			